



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 保育所待機児童ゼロ達成 次は放課後児童クラブの待機児童ゼロへ

これまでのさまざまな取り組みの結果、本年4月、当市はついに「保育所待機児童ゼロ」を達成しました。今月は、「子育てのまち 島田」が継続的に取り組んできた待機児童対策について報告いたします。

まず、この5年間(平成26年度～30年度)の保育所数とその定員を比較しますと、保育所数は16園から22園(認定こども園含む)に増え、「地域型」といわれる小規模保育・家庭的保育・事業所内保育施設は、0から6カ所になりました。定員は、この5年間で322人増加し2,017人となっています。

特にこの1年間は、ゆりかご保育所の開設や、島田中央幼稚園・島田学園付属幼稚園など4カ所の認定こども園化を支援し、288人の定員増を果たしました。ここ数年の待機児童数は20人程度でしたから、これにより、潜在的待機児童も含めて、昨年開所したゆりかご保育所を希望されるほとんどの児童が入園可能になると見込んでいます(本年度、民間保育所に係る予算額は31億499万円)。



昨年開所したゆりかご保育所

ところで、「少子化で子どもが減っているのに、なぜこんなに保育所が足りないの?」と疑問に思う人もいらっしゃるかもしれません。確かに、当市の0～5歳児の数

は、平成25年3月末5,068人でしたが、平成30年3月末には4,610人となり、5年間で458人減っています。それでも保育所の待機児童が顕在化する理由は、共働き世帯が増えたことにあります。日本ではバブル経済が崩壊した1990年代初めから共働き世帯が専業主婦世帯を上回るようになりました。リーマン・ショック後はさらに急増し、地方都市の島田市でも、育児休暇を終えてすぐに職場に復帰する親が増えて、0～2歳児の保育定員はいつも供給が需要に対して追いつかない状況が続いていたのです。

さて、保育所の待機児童ゼロを達成した後の次なる目標は、「放課後児童クラブの待機児童ゼロ」です。放課後児童クラブも、この5年間で5クラブ増やし20クラブとしました。定員も340人増やし、現在は980人です。それでもまだまだ足りません。施設を増設できる場所が限られている上、指導員の確保がままならないのが現状です。平成27年度からは対象児童を6年生まで拡大していますので、希望者はますます増えるでしょう。運営形態も見直しが必要です。



川根放課後児童クラブの開所式

今後もこうした身近な課題を市民目線で一つ一つ解決し、市の将来像「笑顔あふれる 安心のまち 島田」を目指してまいります。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

今年も岸町にある花桃が、色鮮やかな花を咲かせました。この桃の木は、7年前の東日本大震災の年(平成23年)に咲いた花の実から種を取り、翌年に苗木として植えたものです。あの教訓を忘れないようにと、震災の年にちなんで23本の苗木を植えました。

植樹して4年目に開花し、年々花が増えてきました。昨年には見事な花壇になり、近隣の人たちも大勢見学に来るほどに育ちました。今年も、見頃になった3月末には、華

やかに花を咲かせて、訪れた人たちの目を楽しませてくれました。被災地の復興と共に、この花桃の木が成長していく



ことを、地域一同で願っています。
(石川吉男さん・久保田春枝さん・神戸正実さん)